

平成15年度 中城湾港泡瀬地区環境保全・創造検討委員会  
第1回 人工海浜専門部会 議事概要

日 時 平成15年9月2日(火) 13:00~16:00

場 所 沖縄市産業交流センター 第1会議室

欠席者 仲座委員(琉球大学 工学部 助教授)

座長選出

入江委員(九州大学 工学研究院環境都市部門 沿岸海域環境学講座 教授)

議 事

本部会は、人工島型式の埋立地につくられる人工海浜について専門的な検討を行う。

今後の取り組み内容について

- 内容・スケジュールについて、以下の項目の確認が行われた
  - (1) 植生について、みなとまちづくり懇談会との関係及び沖縄市緑の基本計画との関係はどうなっているのか。  
これから行っていくものである。みなとまちづくり懇談会の意見を受け、環境利用学習専門部会から本部会に提案があることも想定している。
  - (2) 1-line-modelを用いるとのことであるが、経験値を含む値が必要となる。近隣の事例等を確認する必要があるのではないかと。  
現地での波浪等の観測を行っている。当該埋立地区が浅いこと、地形が複雑であることから、現地での再現確認を行う予定である。
  - (3) 基本構想図の作成について、どの程度まで行うのか  
いわゆる青写真程度の構想図とする。  
植生等の検討はどうなるのか。  
構想図作成後に詳細な検討を行う予定である。

人工海浜整備スケジュールについて

- 説明がなされた。

計画対象地の現況と課題について

(1) 立地条件の整理

- 立地条件の整理について、以下の項目の確認等が行われた
  - ア. 砂嘴の形状変化の記載理由について  
波浪の影響を示す経年変化の資料として記載した。また、保存が求められている。砂嘴の保全により干潟全体の保全の目標となる。  
砂嘴の形状を見ると、長周期波の影響が考えられる。調査する必要がある。  
検討する。
  - イ. オカヤドカリについて
    - (ア) 生態は判明しているのか。  
概ね判明している。
    - (イ) 石張り護岸でも生息が可能なのか。  
琉球石灰岩を使用し、緩傾斜にすれば可能。海域と陸域の連続性が重要である。
    - (ウ) 生息している場所の連続性について現状把握をする必要がある。

(工)人工海浜の護岸傾斜は、一律での設計か。

人の利用とオカヤドカリ生息域のゾーニングの検討も必要と考えている。

ウ. 周辺緑地について、人工海浜専門部会で検討するのか。

基本的には、他で検討すべき事項であるが、こちらで検討したことを基に、提案することは可能と考える。

(2) 観光・レクリエーションの実態の整理

- 観光・レクリエーションの実態の整理について了承された

(3) 上位・関連計画による要請事項の整理

- 上位・関連計画による要請事項の整理について了承された

(4) 問題点・課題の整理

- 問題点・課題の整理について了承された。

人工海浜整備計画における基本方針について

オカヤドカリの戦前の情報は無いか？無いなら年輩の方からの聞き取り調査が必要と考える。また、聞き取り調査の結果を図示出来るとなおよい。

後日の勉強会で聞き取り調査を実施する。

泡瀬干潟の植生等の原風景の聞き取り調査が必要ではないか？イメージ図を作成する必要がある。

泡瀬地区の勉強会で運動公園近くの海岸が原風景に似ているとの情報有り。イメージ図の作成については、検討する。

西海岸に無い東海岸の優位性をキャッチフレーズにする必要がある。

西海岸にない、ここにしかないビーチ造りが必要である。その為にもアピールをする必要がある。

やっています。他にないということでは、先日、障害を持つ子どもたちを支援する地元市民団体が「はやくほしいなあ ぼくらの 美ら島(ちゅらしま)ビーチ」をキャッチフレーズにコンサートを行っています。このことから、身体障害者にも優しい、バリアフリーのビーチが求められていると認識しております。

基本方針については、下記の5項目が了承された。

- 地域に根ざした地域のための海レク空間の整備
- 「利用」と「環境」が両立する共存空間の創出
- 地域を代表する生物の生息環境基盤の確保
- 地域と調和する人工海浜の景観演出の実現
- 背後観光レク施設との連携を目指した地域活性化に寄与する人工海浜の整備

その他

特段無し